

塘研究室現地調査報告 03

9月23-24日に出羽三山の一つ、月山の調査を実施しました。調査内容は昨年9月23日に月山で分布を確認した山岳域のイネ科を寄主とする未記載のアザミウマ類とマイヅルソウを寄主とする *Ctenothrips* 属（こちらもおそらく未記載種）の分布範囲確認、追加標本の採集、そしてブナ林に生息する土壌性 *Mundochthonius* 属のカニムシ類採集のためのリター採取です。

23日に湯殿山の湯殿山神社本宮参道沿い、月山六合目の津長井神社平清水付近と三合目ちょっと下のブナ林内にてリターを採取しました。昨年は月山四合目付近のリターからカニムシ類が得られましたが、リターが乾燥気味だったこともあり、遺伝子解析のサンプルとしては十分な個体数を確保できませんでした。今年は昨年と違ってリターも適度な湿り気をもった良い状態だったので、期待できるのではないかと思います（現在、カニムシ類の抽出作業中です）。24日は羽黒山口（月山八合目）から調査を開始しました。昨年とほぼ同じ日での調査となりましたが、今年は紅葉が見頃を迎えて素晴らしく、また、植物もハクサンイチゲをはじめ、ウサギギク、ミヤマリンドウ、シラネニンジン、ナンブタカネアザミなどの花が見られ、虫もハヤチネフキバツタ、ミヤマヒナバツタが頻繁に姿を見せてくれました。

目的のアザミウマは昨年の調査で仏生池小屋から山頂までの間で5個体が採集されたのですが、具体的な場所が特定できていませんでした。今回、仏生池小屋から少し登った場所（岩場に寄主のイネ科植物生える場所）が唯一の生息地であることが確認できました。約40個体と分類や遺伝子解析のサンプルとしては十分な個体数を採集することができました。一方、*Ctenothrips* 属の方はマイヅルソウの葉のほとんどがすでに枯れており、仏生池小屋までの間、まだ青い葉を1枚1枚めぐりながら登りましたが、残念ながら発見することはできませんでした。

仏生池小屋も頂上小屋も前日に今年の営業を終え、豪雪の冬を迎える準備が進められていました。



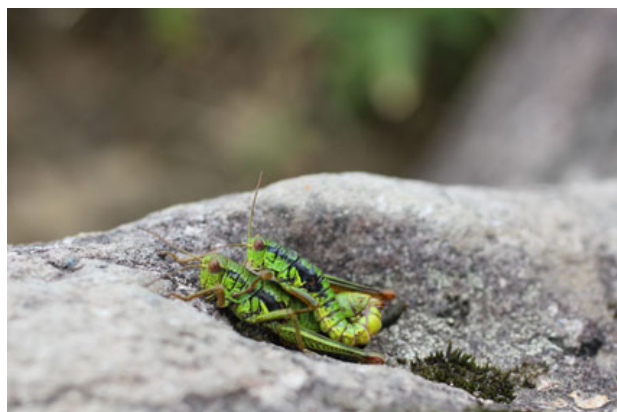
仏生池小屋から少し登った場所の紅葉



登山道から見た弥陀ヶ原の紅葉（遠方は鳥海山）



登山道のあちこちに見られたハクサンイチゲ



岩の上で交尾中のハヤチネフキバツタ